

第6回 車内で手当ても行う救急車

A 緊急の病気やけがの人を運ぶ救急車。今回は、救急車の中でも特に設備が整っている救急車（高規格救急車）の中を見てみよう。



こうした物などを使って手当てをするのが、私たち救急隊員。一人でも多くの命を救うために、訓練と機械の点検を毎日欠かさずに行っているよ。



救急隊員・福島さん



①AED(自動体外式除細動器)
電気ショックで心臓の動きを元に戻します。



②気管チューブ
スムーズに人工呼吸を行えるようにします。



③薬剤セット
薬(アドレナリン)を注射するための針や注射器のセットです。



知りたこといっぱい

チョウの専門家として、赤城山に生息する県指定天然記念物ヒメギフチョウの保護活動に情熱を注いでいる。
「関東では赤城山にしか生息していません。見られるのは4月中旬から5月下旬ごろまで、春の舞姫と呼ばれる美しいチョウです。ここでは毎年20〜30頭が羽化するだけで絶滅の恐れがある種です」
昭和22年のカスリン台風で赤城山の生息地が破壊。ヒメギフチョウの数は大きく減少した。また、以前はまきや炭を得るために整備されていた雑木林が荒廃し、生息環境が悪化しているという。そのため、保護のための研究も熱心だ。
「中学の時から昆虫や植物が好きでした。働いていたときは、なかなか時間が取れず実現できなかったチョウのルーツ

を探る旅行に出掛けています。ヒメギフチョウが最初に発見されたロシアへ行くことができました」
子どもたちに自然の大切さを教える環境教育もライフワークの一つ。児童文化センターなどから依頼を受けて行う課外学習は大人気だ。
「今の子どもたちは、自然を映像で見ること慣れてます。しかし、実際に触れることで感じられる自然の素晴らしさを教えたいと思っています」
保護活動の課題は、メンバーの高齢化。若い担い手の育成を急いでいる。
「チョウとの出会いは、いつも新鮮で感動的です。自然の魅力を子どもたちに伝えることが、未来へ美しい自然をつなぐためには不可欠だと信じています」

自然を守る心を後世につなぐ



自然保護や環境教育に尽力

篠原 豊さん 77歳
城東町一丁目



晴れ渡る空に大だこが舞う

2月9日、敷島公園河川緑地で上州空っ風凧揚げ大会 in 前橋を開催しました。フィナーレは恒例の大だこ揚げ。畳25・5枚分のたこが空高く舞い上がると、固唾を呑んで見守る多くの見物客から、拍手と歓声が起りました。



産業振興など市内16社を表彰

2月4日に前橋テルサで、産業振興や社会貢献に寄与した企業に対する表彰式を行いました。対象となったのは地域経済の活性化に貢献するとともに、顕著な業績があると認められた市内の16社。代表者一人一人に山本市長から表彰状が手渡されました。



赤城山雪まつりでスノーシュー体験

2月9日、県立赤城公園ビジターセンター周辺で赤城山雪まつりを開催。スノーシュー体験ツアーのほか、雪上富士見かたや宝探しなどのイベントを行いました。訪れた人たちは、寒さにも負けず、白銀の大自然の中で楽しいひとときを過ごしました。



3月17日まで「収蔵美術展」

ミニギャラリー千代田で、市が所蔵する美術作品を市民の皆さんに広く公開する「収蔵美術展」を開催中です。今回のテーマは「はじまる道」。清水刀根など本市ゆかりの画家9人の作品を展示しています。会期は3月17日まで。ぜひ、ご覧ください。